

**第28回 花の国づくり共励会**

**花き技術・経営コンクール**

**受賞者の業績概要**

平成31年3月

一般財団法人日本花普及センター



# 第28回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール

## 表 彰 式

平成31年3月15日（金）  
学士会館  
東京都千代田区神田錦町3-28  
表彰式13:30～14:30  
懇談会14:30～15:30頃

## 表 彰 式 次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 審査講評  
審査委員長 日本大学生物資源科学部 教授 腰岡政二
- 3 賞状授与  
農林水産大臣賞 1点  
農林水産省生産局長賞 3点  
一般財団法人日本花普及センター会長賞 2点
- 4 祝 辞
- 5 記念撮影
- 6 懇談会  
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催



## 第28回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール 受賞者一覧表

### 【農林水産大臣賞】

高橋 成治 (たかはし せいじ)  
多肉植物 (セダム、エケベリア等300種、グリーンネックレス )  
愛知県碧南市

### 【農林水産省生産局長賞】

清水 秀一 (しみず しゅういち)  
グランドカバープランツ (ヘデラ、キツタ、テイカカズラ等、緑化ユニット)  
埼玉県深谷市

J A大阪泉州花卉生産出荷部会 (JA おおさかせんしゅうかきせいさんしゅつかぶかい)  
代表者名 奥 安則 (おく やすのり)  
切り花 (アイリス、グラジオラス、リアトリス、ユリ、ケイトウ、フリージア )  
大阪府泉南市

南里 優 (みなみざと まさる)  
南里 美紀 (みなみざと みき)  
切り花 (コチョウラン)  
福岡県糟屋郡志免町

### 【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

武富 政敏 (たけどみ まさとし)  
切り花 (トルコギキョウ、スイートピー、シンテッポウユリ )  
佐賀県杵島郡江北町

開田 浩幸 (ひらきだ ひろゆき)  
開田 陽子 (ひらきだ ようこ)  
切り花 (カーネーション、コギク、ハボタン )  
長崎県大村市

## 第28回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール

### 審 査 講 評

第28回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げます。花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、6名の審査委員により、提出された書類に基づく第1次審査と、現地での第2次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の経営体が選ばれました。

愛知県碧南市の高橋成治氏は、鉢物・苗物生産の複合経営を営んでいます。平成5年に就農し、妻実家の鉢物花き経営に参画しました。生産現場での企画やデザインを重視することで、オリジナリティの高い商品の開発による安定した収益性のある経営を目指しています。取扱品目は、セダム、エケベリア、グリーンネックレス等の多肉植物約300種に及んでいます。計画的な規模拡大を進めることで、現在では、就農時の約2倍の経営規模となっています。

栽培面では、多様化する消費要求に対応するために品種数や栽培システムを考慮するとともに、商品開発を目指した選抜育種も行っています。雇用面では、集出荷場の整備と台車の利用で資材や製品の運搬が女性従業員でも容易にできるシステムを構築しています。環境面では、無加温ハウスの活用や適切なスローガンの考案などで、省エネルギーや清潔な環境の維持に努めています。出荷・販売面では、多肉植物の詰め合わせによるセットシリーズの開発やラベルデザインの工夫などに取り組み、多種類のオリジナル商品を開発しています。地域社会支援活動では、小中学生を対象にした職場見学受け入れや寄せ植え体験を実施しています。

このように、苗物・鉢物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去3年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の3経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

埼玉県深谷市の清水秀一氏は、苗物生産経営を営んでいます。短大卒業後、海外で2年間、帰国後も関連業界で研修した後に24歳で就農しました。苗物生産をベースに屋上緑化・壁面緑化などの特殊緑化分野に軸を置き、商品開発に取り組んでいます。栽培技術面では、緑化ユニットの開発や不良環境に耐えられる定着技術の確立だけではなく、施工業者のニーズを基にしたヘデラ・キズタ類のオリジナル規格や、緑化工事においてはヘデラ類などの早期緑化を意識した独自規格を開発することで高品質苗の作出に心がけています。労働面では、ベンチ栽培などの労働環境の整備やフォークリフトと台車の活用などで労力軽減や労働時間の短縮を行い、また、頭上灌水設備の導入や鉢上げ用ポットの土詰め作業の委託などで省力化を実現しています。環境面では、リサイクル資材の活用や栽培管理による農薬使用回数の

低減などに配慮しています。地域においては、鉢物農家などの実需者と造園緑化業界とのマッチングに取り組んでいます。このように、苗物生産に安定した経営を実現し、緑化・植栽に関わる商品づくりで需要に応えていることが評価されました。

大阪府泉南市のJA大阪泉州花卉生産出荷部会では、花き栽培に関わる新技術や品目についての学習と情報交換を目的として、昭和39年に8戸の農家により設立され、現在は10戸の専業農家で活動しています。設立当初は個人出荷体制でしたが、運搬業務の共同化や販路拡大を目的として、昭和45年に共同出荷体制に移行しました。切り花としては、アイリス、グラジオラス、ユリ、リアトリスなどの球根花きを主体としています。平成10年から主要品目の出荷データ、球根入荷量、栽培予定面積などから、作付け前に予約相対取引ができるシステムを構築し、安定的な経営を実現しました。労働軽減においても、リアトリス球根堀上の機械化や、冷蔵庫の共同利用などに取り組んでいます。さらに、地域の小学生に対しては、球根の植え付け育成体験を通して花育活動を実施するなど、花き栽培への理解促進と将来の花き需要創出に向けた取組みを実施しています。このように、大阪府内でいち早く共同出荷体制に移行することで、切り花の出荷規格の統一や品質向上が可能となり、「泉南の花」としての有利販売や収益向上が経営体として評価されました。

福岡県糟屋郡の南里優、美紀夫妻は、コチョウラン切り花生産の経営を営んでいます。優氏は平成5年の大学卒業と同時に実家の花き生産に参画することで、美紀氏は、平成7年の結婚を機にそれぞれ就農しました。優氏の就農と同時にコチョウランを導入し、施設内環境制御による開花調節技術を確立した後に、生産主体をコチョウラン切り花に切り替えました。新品種の導入に合わせて、台湾とのリレー栽培方式を取り入れ、安定切り花生産を確立しました。さらに、交配育種から新品種登録も行い、オリジナル商品として販売しています。栽培面では、温湯暖房機とヒートポンプ併用ハイブリッド方式を取り入れ、冬季には炭酸ガス発生装置の余熱を有効利用するなどの燃油削減に努力しています。また、ミズゴケを用いた素焼き鉢栽培で、灌水作業の外部委託を可能にしています。出荷時には、軟式給水キャップを利用することで、切り花の品質向上を図っています。さらに、大手実需者と年間販売契約を結ぶなどの安定有利販売も心がけています。このように、コチョウラン切り花生産経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展に貢献していることが評価されました。

一般財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の2経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

佐賀県杵島郡の武富政敏氏は、切り花経営を営んでいます。昭和45年に実家の施設野菜栽培で就農しましたが、2年後に花き栽培に転向し、現在は、トルコギキョウ、スイートピー、シンテッポウユリが主要な作目となっています。栽培面では、有機物投入による土壌改善や高畝栽培などの工夫から、大輪で日持ちの良いトルコギキョウや切り花長の長いスイートピーなど、高品質な切り花の生産を実現しています。また、土壌の詳細分析を実施することで、塩類集積を防止し、環境に配慮した生産に努めています。出荷・販売では、市場を自ら選択し、市場を分散させることで安定経営をしています。さらに、新規就農者の研修受け入れや、作目ごとの研究会を組織し、後継者の育成を図るとともに県の花き振興にも務めています。このように、切り花経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展に貢献し

ていることが評価されました。

長崎県大村市の開田浩幸、陽子ご夫妻はカーネーションを主体とした切り花経営を営んでいます。浩幸氏は農業協同組合に6年間勤務した後、平成8年に就農し、切り花生産を開始しました。栽培面では、土壌改善やベンチ栽培等の工夫から、土壌病害の発生を抑えています。光反射マルチの利用で地温上昇抑制と株元受光量の増大を図り、環境制御装置を駆使することで高品質生産に繋がっています。また、共同選花やコールドチェーンの構築により大規模経営を可能にしています。さらに、後継者を含めた家族経営協定書が締結されて、適切な労務管理がなされています。社会活動では、浩幸氏は大村カーネーション部会長として、陽子氏は長崎県農業士として、農業者の育成や地域の活性化に取り組んでいます。このように、切り花生産において安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

平成30年の冬は歴史的な寒波と大雪になりましたが、春は全国的に気温が高くなり、桜前線は記録的な速さで北上しました。しかし、7月の豪雨は西日本に甚大な被害をもたらし、さらに、8月の酷暑、9月の台風、10月、11月の暖冬と例年にも増しての異常気象が続き、花きに限らず多くの作物で生育不良や開花遅延などの影響が懸念されました。そのような中で、今年度の審査会において推薦のあった多くの経営体が、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、オリジナル品種の育成、あるいはブランド品目の育成など、新しい需要の開拓に力を注ぎ、着実な経営に腐心されていることに心強く感じました。

わが国の花き産業は、農業を取り巻く環境と同様に依然厳しい状況にありますが、花きの振興に関する法律を後ろ盾としてようやく復調の兆しが見え始めました。このような中で、花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に向けて、今後とも一層のご尽力を賜りますようお願いし、審査講評といたします。

平成31年3月15日  
審査委員長  
腰岡 政二



## 【農林水産大臣賞】

高橋 成治 愛知県碧南市  
多肉植物（セダム、エケベリア等約300種類）

高橋 誠治氏は、岐阜市出身で大学を卒業後銀行に勤務していたが、平成5年に大学で知り合った世利子氏と結婚、これを機に妻の実家の「清水園」に就農した。誠治氏は、農業とは無縁の世界で育ち、栽培から経営までの全てを知らない世界へ入ったが、多肉植物の栽培管理は、義父の英彦氏から手ほどきを受けた。さらに、(株)豊明花きで研修を受け、鉢物流通（商品バイヤー）を学び、多肉植物経営について栽培技術から商品作りのノウハウやアイデアを培った。

経営の特徴として、①異業種経験を活かした常識にとらわれない新商品の開発、②オリジナル品種の育成と需要に対応する多品目栽培、③大型トラックが駐車可能な新出荷場の建設と軽トラックの活用、④朝礼や定期ミーティングを通じた従業員とのコミュニケーションが挙げられる。

栽培技術について特に工夫した点は、（1）オリジナル品種でPRを行っていること（平成21年に‘エオニウムサンシモンバイオレット’を品種登録）、（2）多様な種類の多肉植物を栽培していること、（3）植物の種類に合わせた栽培システムを工夫していること、（4）従来の常識を変える商品づくりを行っていることである。

出荷・販売については、（1）製品にマッチングした商品名の表示（平成20年に「ホヤかりん」を商標登録）、（2）消費者目線のマーケティングに重点を置いて「店頭で手に取ってもらえるにはどうしたらいいか。多肉植物は趣味の世界。マニア以外にも買ってもらえるにはどうしたらいいか。花屋に周年置いてもらうにはどうしたらいいか。」について戦略を展開していること、（3）夫婦でアイデアを求めて異業種の動きを勉強、（4）脇役の花を主力にする努力（RHS J コンテナガーデニング・マスターの資格を夫婦で取得）、（5）ラベルデザインの工夫、ヒット商品の開発等に取り組んでいる。

労働軽減や雇用管理等については、女性の感性を大切にしたい経営を行っており、製品を女性が手に取り買ってもらえるためには、女性ならではの感性を商品に反映させなければと考えており、開発中の商品の評価を従業員から聞くことで女性の考え方を積極的に取り入れている。また、従業員（パートタイマー）とコミュニケーションをとるための時間を設定しており、まず、出勤日は必ず朝礼を実施し、従業員全員への1日の業務内容の周知をし、週1回、温室ごとに1時間のミーティングを実施している。また、朝礼やミーティング以外にも積極的にコミュニケーションをとるように心がけており、日々の何気ない会話などからも従業員の調子を推し測ることができ、従業員の健康管理に一役買っている。

環境保全や省エネルギーについては、分かりやすく覚えやすいスローガンを掲げ、「ゴミゼロ（530）」、「ムシゼロ（640）」、「クサゼロ（930）」等により各温室の清潔な環境を維持する努力をしており、省エネルギーについては、無加温ハウスをうまく利用し多肉植物栽培に取り組んでいる。

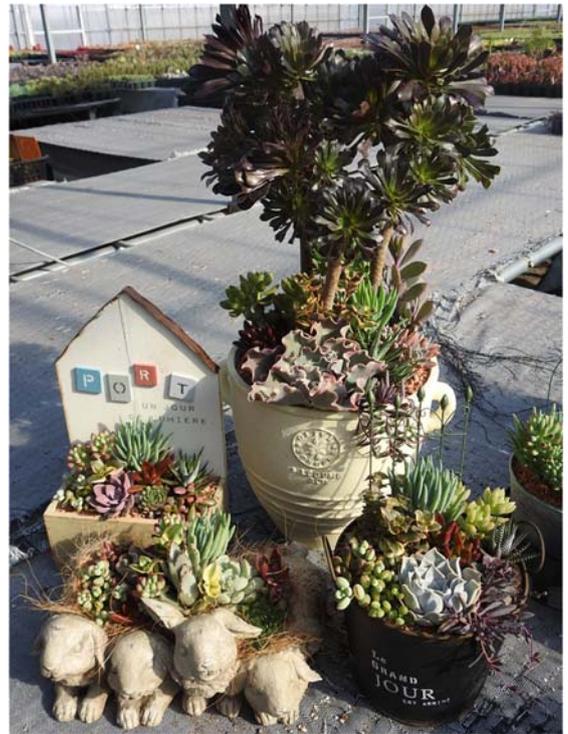
成治氏は、6年ほど前から花育の一環で碧南市立日進小学校の職場見学を受け入れており、花の生産を体感してもらい、花に興味を持ってもらう取組をしている。また、英彦氏が始められた多肉植物の寄せ植え体験も継続している。



左から 高橋 成治 高橋 世利子  
ハウスにて



出荷場



母の日向け商品



多肉植物「春セット」

## 【農林水産省生産局長賞】

清水 秀一 埼玉県深谷市

グランドカバープランツ（ヘデラ、キツタ、テイカカズラ等、緑化ユニット）

清水 秀一氏は、短大卒業後2年間ニュージーランドにおいて英語の語学研修に取り組みながら、日本向けコショウラン切り花の輸出企業において出荷調整作業の経験をした後、帰国後2年間、造園卸会社においてモノの流れや植栽に用いられる代表的な植物と利用方法について学んだ。

平成8年に24歳で就農、当初は父親が経営するヘデラ類を中心としたグランドカバープランツ生産を行った。さいたまスーパーアリーナの建設工事の際に、当時は、国内でも前例がなかった本格的な壁面緑化に構想段階から係わることができ、関係業者と連携して植栽工事を完成させたことがきっかけとなり、壁面緑化植物の生産を本格的に開始した。

壁面緑化の植栽では、施工後に早期に「緑化」することが求められる。父親がグランドカバーとして主にヘデラ類を栽培していたこともあり、培った経験から不良環境にも強く、短期間で観賞できるヘデラ、キツタ類を主力品目に選定し、生産を集中させた。

栽培技術について特に工夫している点は、（1）造園緑化業者の仕様ごとに合わせて養生した植物を植栽ブロック別にユニット化し、番号管理している。これにより、植物名が分からない現場の施工業者でも番号に合わせて埋め込むことで簡単に植栽を完成できるようにしている。また、苗をユニットに植栽しても重くならないように工夫し、作業負担を軽減している。その他、（2）植栽後の不良環境に耐えられる定着技術の確立、（3）品目ごとにストレス耐性を評価し、積極的に造園緑化業者へ提言、（4）施行業者のニーズから生まれるオリジナル長尺規格のヘデラ、キツタ類の開発、（5）施工後の早期緑化を意識した独自規格を工夫している。

出荷・販売については、緑化ユニットで取り扱う植物は約40種類であるが、そのうち4割程度は地域の仲間に栽培を委託している。また、栽培した長尺苗のうち3割は仲間からの栽培を受託している。お互いの得意品目を認め合い分業することで長尺苗に特化することができ、地域内分業体制の構築により、効率的で高品質な苗生産が行われている。さらには、発注業者の希望に沿った発送方法、

夏の暑さに強い品目や彩豊かな品目等時代のトレンドをつかんだ品目の提案、安定した販売単価を実現した生産・販売体制を工夫しており売れ残りや無駄な経費は掛からない仕組みを考える。

清水氏は、これまで携わった壁面緑化についてすべての企画・設計段階から参画して植物の情報を提供し、また、メンテナンスのアドバイスも行っており、平成30年には、埼玉県花き技術・経営功績表彰（知事表彰）を受賞した。

## 【農林水産省生産局長賞】

**J A大阪泉州花卉生産出荷部会（代表者 奥 安則） 大阪府泉南市**  
**切り花（アイリス、グラジオラス、リアトリス、ユリ、ケイトウ、フリージア）**

J A大阪泉州花卉生産出荷部会は、大阪泉州農業協同組合に所属し昭和39年8月に設立、現在10戸の専業農家で構成する組織である。

泉南市は、タマネギの産地であったが、昭和31年にべと病が大発生した。部会設立者の一人となる梶本 進氏は、代替品目として花きに着目し、府内の花き産地を視察し小ギク、アリウム等の試作を始めた。花き栽培は、泉南市の農業者に広がり、新技術や品目について学ぶとともにお互いに情報交換をすることができる場が求められたため、昭和39年に泉南市花き組合を8名で設立した。

当時の花き産地は、市場への個人出荷が主流であり、設立当初は、個人出荷を行っていた。しかし、府内の同じ市場で会員が競合すること、市場への運搬は個人では負担が大きいため、府内や近隣他県の市場しか出荷できず販路を拡大できないこと、さらにタマネギで共同出荷の経験もあることから昭和45年に共同出荷体制に移行した。

栽培技術について特に工夫した点は、アイリスやフリージアの開花促進に当たって、安全で手軽なエチレングラス缶による休眠打破処理を大阪府立大学と大阪府と共同で開発し、全国で初めて実用化したこと、また、アイリスの球根を国産から海外の輸入球に切り替えた際にも、冷蔵処理温度・期間の試験を重ね、栽培方法をお互いに情報交換することで物日にうまく合わせ、草姿がきれいなアイリスを全ての部会員が栽培・出荷することが可能となっている。

出荷・販売については、共同出荷により出荷にかかっていた労力を生産に向けることができ、経営規模の拡大や品質のよい花の生産につながり、また、出荷量をまとめることで近畿から中国・関東・東北等の市場開拓が可能となり経営の安定化に寄与している。ボリュームのある泉南の花が特に関東で好まれることや、温暖な気候を活かして関東より早く出荷し、高単価で販売できたことから、関東地方は主要な出荷先となり、現在も取引を続けている。

平成10年からは、過去10年分の主要品目の出荷量、規格・時期をデータ整理し、栽培予定面積、球根入荷量を基に作前に市場へ規格ごとの出荷量・時期を伝える予約相対取引を行う仕組みを整備した。平成20年代から、主要品目の出荷最盛期前に府内や東北の市場の担当者を生産現場に招き、生育状況や出荷最盛期・出荷量・規格割合の情報を共有し、彼らの市場においても有利な予約相対取引につながるよう取り組んでいる。

労働軽減、省エネルギーについては、リアトリスの栽培において人力で塊茎を掘り上げるのは重労働であったが、泉南地域特産のフキ栽培に用いる地下茎掘り上げ機を用いることにより作業軽減と効率化につなげており、また、部会での冷蔵処理や共同出荷により電気代、燃料代の節約につなげている。

地元では、小学生に対してアイリスやチューリップ等の植え付けから育成を体験してもらう花育活動を実施しており、地元の花き栽培への理解促進と将来の花き需要創出に向けて取り組んでいる。今後は、営農地が市街化しているので、住民に花き生産について理解を得て、住民と共存しながら営農を進めるとともに、新規就農者や後継者の育成に取り組む必要があると考えている。

## 【農林水産省生産局長賞】

南里 優 南里 美紀 福岡県糟屋郡志免町

切り花（コチョウラン）

#

南里 優氏は、平成5年に大学卒業後、両親の経営する南里~~なんり~~園芸~~えんげい~~に就農。就農時は、オンシジユムの切り花を栽培していたが、コチョウランの需要の高まりに着目し、経営品目をコチョウランに切り替えた。さらに大学農学部と連携し開花調節技術を確立し、また、平成14年に生育障害により経営危機に陥ったが、海外から全国に先駆けて新品種# ‘ジョインエンジェル’を導入することで経営を立て直した。都市部であるため面積拡大が出来ない中、栽培体系を見直し、台湾から3年生苗を導入することで生産量の拡大を可能にしており、市場や取引業者から高い品質とともに山谷のない周年安定した出荷によって厚い信頼を得ている。#

美紀氏は、平成7年の結婚を機に就農した。夫と一緒に仕事をする中で徐々に農業知識を身に付け、簿記や経営の勉強のために普及指導センター等のセミナーに積極的に参加し、生産現場では女性が働きやすい環境づくりを提案しており、現在は、出荷、経理、雇用管理等を担当し幅広く経営に参画している。#

二人で都市近郊の数少ない農業の担い手として活躍しており、地域の雇用をうまく活用しながら働き方改革を行って、二人三脚で南里園芸の発展に努めている。さらに次世代の青少年に農業の魅力を伝える活動を行うなど、農業の後継者育成に尽力している。#

栽培技術について特に工夫した点は、複合環境制御装置の導入によりコチョウランに最適な栽培環境を維持しており、ヒートポンプの導入によって光熱費を抑制できるだけでなく、多湿時期の花弁のシミが減少し出荷ロスを3%以下に抑えている。また、優良系統の活用とオリジナル品種の育成に取り組み、‘ジョインエンジェル’は、導入から16年を経過した今でも高い評価を得ているとともに、この中から特に形質の優れた優良な個体を定期的を選抜しており、平成18年には‘エムツーミー’と‘エムツーユー’の2品種を登録している。#

このほか、用水成分分析と単肥配合による施肥設計、ウイルス病対策、素焼き鉢と水ゴケの利用、ヒートポンプの全施設配管による鉢移動労力の削減を行っている。#

出荷・販売については、日持ち対策の一つとして大型・軟式の給水キャップに挿入して出荷しており、箱詰め後は、出荷までストックヤードで温度20℃を保つことで、高温障害や水落ちを回避している。そのほか、開花調節技術を駆使し周年を通して安定した出荷の実現、市場担当者との連絡を密にし必ず出荷2日前までに出荷情報を発信、葬儀業者との年間契約による有利販売を行っている。#

労働軽減や雇用管理等については、平成15年に働き方改革として、家族と一緒に休める農休日进行を設け、現在、かん水作業をシルバー人材センターに完全委託している。また、夫妻と雇用者全員でSNSを活用して相互発信できる仕組みを作り情報の共有を行っている。# 優氏は、県下洋ラン生産のリーダーとして、また、志免町において唯一の認定農業者として、研修生の受け入れ、小学校のゲストティーチャー等として活動しており、美紀氏は、県女性農村アドバイザーに認定され現在2期目である。#

#

#

## 【一般財団法人日本花普及センター会長賞】#

**武富 政敏** 佐賀県杵島郡江北町  
切り花（トルコギキョウ、スイートピー、シンテッポウユリ）

武富 政敏氏は、高校卒業後、昭和45年に就農し親の経営品目であった施設野菜（キュウリ、トマト）の栽培を行ったが、昭和47年に花きの栽培に魅力を感じ、キンギョソウ、ストックの栽培へと転換した。昭和50に地域のスイートピー生産者で組織する杵藤花出荷組合に加入し、昭和54年からスイートピーの栽培を開始した。また、平成元年からトルコギキョウの栽培を開始し、平成23年に地域のトルコギキョウの生産者で研究会組織「キキョウ life」を結成した。

過去に50種類以上の花き品目を栽培した経験から、平成28年には新規就農者の研修を受け入れて技術の伝承に取り組んでおり（2年間）、平成30年には第52回佐賀県花き園芸共進会において農林水産大臣賞を受賞した。

栽培技術について特に工夫した点は、当地域は、土壌が粘質条件で花き栽培には厳しい土壌条件であるが、有機物投入による土質改善や高畝栽培等の工夫を行い、さらには植物の状態を日々観察し、生育状態に応じたきめこまやかな水管理や施肥管理を適期に行うことで、品種の特性を最大限に引き出し、高品質な切り花生産を実現している。その結果、大輪で日持ちの良いトルコギキョウや切り花長の長いスイートピーを生産し、出荷市場からも非常に高い評価を得ており、他産地と比較して1本当たりの単価が高値で取り引きされている。

また、日々の観察の中で生理障害等の生育不良がみられた場合には、土を掘り返して土壌水分や根の状態を確認し、原因究明を行った後に自分なりの改善策を打ち立て、栽培方法の改善に努めている。

出荷・販売については、出荷市場は自ら選定しており、九州方面に加えて関西方面の花市場に出荷している。出荷市場を分散させることで、単価安になることを防ぐとともに、市場の要望や意見を聞くことで、次作のさらなる高品質切り花生産に活かしている。高品質な切り花を安定して出荷することにより、出荷市場からも厚い信頼を得ている。

雇用管理等では、地域の女性を多く雇用しており、休憩場所を日陰にする、仮設トイレを設置する等の働きやすい労働環境の整備に努めている。

環境保全や省エネルギーについては、毎年、土壌の詳細分析を行い、その結果をもとに不足する肥料分のみ施用することで、土壌の塩類集積を防止し、環境に配慮した切り花生産に努めている。

また、日々の観察を怠ることなく、植物体に病気や害虫の発生がみられた場合には見逃さずに発生初期に徹底的に防除を行うことで、大きな被害にならないように努め、農薬は必要最小限の使用を基本にしている。

武富氏は、今後、トルコギキョウ、スイートピーを中心にこれまで確立した花き類の栽培技術を地域の若い生産者へと技術伝承していく。また、蕾の段階から純白なオリジナル性の高いシンテッポウユリ品種「鳥巢の白蕾」に着目し、平成28年から新たに栽培を開始している。この品種は、中山間で開発・栽培されている品種であり、平坦で栽培した場合の生育特性が不明であることから、平坦地での栽培方法及び新たな作型開発に取り組んでいる。栽培する生産者数はまだ少ないが、平坦地と中山間とのリレー出荷による新たな産地形成を考えている。

## 【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

開田 浩幸 開田 陽子 長崎県大村市  
切り花（カーネーション、小ギク、ハボタン）

開田 浩幸氏は、高校卒業後、野菜試験場久留米支場で研修を受け、雲仙農業協同組合に6年間勤務した後カーネーション先進農家研修を経て29歳で就農した。生産施設は、平成9年、13年に補助事業を活用して硬質フィルムハウスを整備し、順次拡大しながら大規模な施設園芸を行っており、地域を牽引している。

また、氏らの尽力により平成10年に設立した県内唯一のカーネーション共同選花場は、選花の労働力を半減することができた。

平成29年には、産地パワーアップ事業で低コスト耐候性ハウスを導入するとともに、規模拡大に伴う労働不足の対策として農福連携（農業分野における障がい者就労）による労力確保へ取り組むなど、収穫期が長いカーネーションでも栽培管理に労力を十分注ぐことができ、本人はもちろん産地全体でも高い秀品率を維持している。

陽子氏は、作業全般、家事全般、パート雇用に関する調整等に係わり、平成28年に就農した後継者（聖剛氏）とともに平成29年に三者による家族経営協定を結んでいる。

栽培技術について特に工夫した点は、カーネーションでは、土作り対策として毎年定植前に有機物を投入して土壌改良に努めており、全ほ場でベンチ内の土壌を完全に消毒することで土壌病害の発生を抑えている。また、全ほ場において光反射マルチ資材を導入しており、夏の地温上昇を抑えながら反射光による株下への受光量を増大することで、初期からの生育が促進され、採花本数の確保と高品質生産につながっている。このほか、品種特性に合わせた仕立て方法、上部かん水設備の設置と活用により収量の確保と高品質生産の両立を実現しており、農薬・化学肥料の低減、環境制御技術の導入にも取り組んでいる。

出荷・販売については、県では『ながさきオリジナル品種』の育成に取り組んでいるが、氏は、これまで県育成品種展示ほを設置し品種育成に貢献しており、県育成品種‘だいすき’は、市場における評価も高い。また、部会長を務めるJAながさき県央大村カーネーション部会では、市場との意見交換を行い、実需者の要望に応えるような品種構成を検討し、栽培品種を決定している。

労働軽減については、自動温度管理システム、養液土耕システムの導入により大幅な作業時間を削減しており、また、黄色防蛾灯やカート式農薬噴霧器を導入し農薬散布に係る労力を半減できている。

省エネルギーについては、全ハウスに循環扇が設置し、夏季は高温対策として、冬季は施設内の温度ムラを無くす対策として活用している。また、二重被覆資材に加えて、有孔ポリの展張資材を活用し、結露水の水溜りを防ぎながらより一層の保温効果を高めることにより燃料コスト低減のための工夫を行っている。

浩幸氏は、平成29年度から所属する生産部会の部会長を務めており、会員の技術向上や市場との連携に尽力し、さらには長崎花き生産組合カーネーション部会長を歴任するなど県花き産業のリーダーとしてその発展に寄与している。

陽子氏も長崎県農業士として県内の若手生産者、普及指導員の育成などに尽力するなど、夫婦で幅広い範囲で活躍している。 # #

## (参考資料1)

## 花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール受賞者一覧

平成31年3月15日

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
28回(30年度)	農林水産大臣賞	愛知県	高橋 成治	セダム、エケベリア等300種、グリーンネックレス 多肉植物	
28回(30年度)	生産局長賞	埼玉県	清水 秀一	ヘデラ、キツタ、テイカカズラ等、緑化ユニット(グ ランドカバープランツ)	
28回(30年度)	生産局長賞	大阪府	JA大阪泉州花卉生産出荷部会	アイリス、グラジオラス、リアトリス、ユリ、ケイトウ、 フリージア(切り花)	
28回(30年度)	生産局長賞	福岡県	南里 優 南里 美紀	コチョウラン(切り花)	
28回(30年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	佐賀県	武富 政敏	トルコギキョウ、スイートピー、シンテッポウユリ (切り花)	
28回(30年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	開田 浩幸 開田 陽子	カーネーション、コギク、ハボタン(切り花)	
27回(29年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	戸崎 明	ユリオブスデージー、フランネルフラワー、ジャスミン、 ブルーデージー、スノーサンゴ、ノボタン(鉢物)	
27回(29年度)	農林水産大臣賞	愛知県	藤目 方敏	キク、スプレーギク(切り花)	
27回(29年度)	生産局長賞	栃木県	角田 盛一	スイートピー、ヒマワリ、ユーカリ等(切り花)	
27回(29年度)	生産局長賞	埼玉県	須永 健司 須永 菜穂美	ガザニア、オステオスペルマム、ブルーデージー、 ゴールドコイン、ブラキカム、マーガレット、オキザリ ス、パンジー・ピオラ、マリーゴールド、ニチニチソ ウ、ペチュニア、アレナリア等(鉢物・苗)	
27回(29年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	佐賀県	徳永 憲昭	コチョウラン(切り花・鉢物・苗)	
27回(29年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	森 敏朗 森 千佳子	キク(切り花)	
26回(28年度)	農林水産大臣賞	愛知	曾田 義則	サボテン類、アロエ、エケベリア、カランコエ、クラッ スラ、セダム、ハオルチア、ユーフォルビア等(鉢 物)	
26回(28年度)	農林水産大臣賞	福岡	坂本 和盛	シクラメン、アジサイ、バラ(鉢物)	
26回(28年度)	生産局長賞	埼玉	篠 太一	ポインセチア、マリーゴールド、インパチェンス、ノ ースポール(鉢物・苗物)	
26回(28年度)	生産局長賞	岐阜	白木 裕人	ヤブコウジ、ブルーベリー等(鉢物・苗物)	
26回(28年度)	生産局長賞	熊本	五蘭塾(塾長 中川圭太)	オンシジウム、ファレノプシス、エピデンドラム、デ ンファル等(切り花・鉢物)	
26回(28年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎	丸田 浩行	キク(切り花)	
25回(27年度)	農林水産大臣賞	埼玉	萩原 幸一	ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、アップルゴーヤ、 縄文ネギ(鉢物・花壇苗)	
25回(27年度)	農林水産大臣賞	愛知	近藤 晴義	ガーデンバラ苗、ミニツルバラ(鉢物・花苗)	
25回(27年度)	生産局長賞	福島	佐藤 幸一 佐藤 朝子	シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネ ーション(鉢物)	
25回(27年度)	生産局長賞	佐賀	平田 憲市郎 平田 志緒梨	カーネーション(切り花)	
25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岩手	岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部 (代表者 鈴木 喜一)	リンドウ(切り花)	
25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	広島	有田 隆則	パンジー、ピオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニ チニチソウ(花壇苗)	
25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎	お花屋さん百花園有限会社 代表 渡邊 徳昭	キク(切り花)	
24回(26年度)	農林水産大臣賞	岩手	新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会 (代表者 高村敏彦)	リンドウ(切り花・鉢物)	第54回農林水産祭 天皇杯受賞
24回(26年度)	農林水産大臣賞	埼玉	朝見 良治	ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリ ス、ラナンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチ ア、ニチニチソウ、クロサン德拉、カラー、プリムラ等 (鉢物・苗物)	
24回(26年度)	生産局長賞	愛知	梶 孝光	コギク(切り花)	
24回(26年度)	生産局長賞	福岡	豊田 武 豊田 千代子	キク、トルコギキョウ、アスター等(切り花)	
24回(26年度)	生産局長賞	長崎	前田 耕一 前田 綾子	シキミ等(切葉)	
24回(26年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	島部 勝昌	エラチオールペゴニア(鉢物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	山形	大築 義雅 大築 実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花 苗(鉢物・苗物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ (代表者 関和勝宏)	ユリ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	岩手	坂戸 明夫 坂戸 テヨ	リンドウ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	愛知	荒木 祥充	アンズリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテ ア、ヘリコニア、シダ類等(鉢物)	
23回(25年度)	生産局長賞	長崎	吉塚 正弘 吉塚 友子	カーネーション、ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高橋 明利	ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 (代表者 三浦慶昭)	コギク、リンギク(切り花)	

22回(24年度)	農林水産大臣賞	福島	有限会社矢祭園芸 代表金澤 善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリム ラポリアンサ、プリムラマラコイデス等(鉢物・苗物)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 (取締役会長 斎藤豊治) (代表取締役社長 斎藤健治)	フィロデンドロン、フィットニア、プリム、ワイヤープラ ンツ、シンゴニウム、ペペロミア等(鉢物)	
22回(24年度)	生産局長賞	福岡	花田 哲治 花田 泰子	バラ、ユリ(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	沖縄	新垣 進	コギク(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場 フラワー部会	ストック、切り花ハボタン、フリージア(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	坂井 浩一郎	キク(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部	コギク(切り花)	
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀	小柳 誠五 小柳 一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川県	有限会社五領ヶ台ガーデン (代表取締役 窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタ チューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知	稲垣 長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 (代表取締役 金原由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本	坂崎 改輝 坂崎 久子	シュッコクカスミソウ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	吉澤 明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ピ オラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	牛島 博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 菊部会 (代表者 野谷智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合 修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田 克徳 安田 節子	サカキ、花桃、ニューサイラン、しめ縄、門松、松竹 梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口 政則 山口 和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤 正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物洋らん 類)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原 茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんど清川 代表取締役社長 小久保恭一	リングク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	榑田 倉司	リングク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松 英雄	アンズルーム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野 重登 浜野 明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤 貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	福治 義彦	ジャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田 定寛 柴田 富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石井 克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒白 秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田 正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野 圭祐	アンズルーム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川県	加藤 悟	シンビジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野 和美 平野 照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋 正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高 重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑 善実 空閑 桂子	バンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル 観葉生産組合 (代表者 福留 健一)	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤 勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石 俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬 一男 澤瀬 ロシタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	樋口 喜善	バンジー等(苗物)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	真子 徳幸	キク(切り花)	

15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島 嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉 文雄	シクラメン等(鉢物)	
	生産局長賞	愛知	内藤 完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高木 兼雄	スパティヒラム(鉢物)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城 昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下 良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会(代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣 正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)檀山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鶴飼 敏之 鶴飼 浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋 三千年 高橋 節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村 幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	神藤 正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	谷岸 隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎 進一郎	シンビジウム(鉢物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	松永 宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本 昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原 武博	ジャズミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木 和彦 白木ふさ子	レッドロビン等 (洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎 憲治	スイトピー等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部(代表者)中川 剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田 則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方 久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井 義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤 勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴崎 喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川 正樹 石川 結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端 芳彦 川端 葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	福田 良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西 幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永 健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林 滋幸	カラコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中 勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野 鉄博 河野 常子	ランキユラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林 富造 林 房子	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菖蒲 正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻 栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田 律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部 雅志	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森 崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高辻 義邦	ユリ等(切り花)	

10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西 隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉 貞吉	テッポウリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林 康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城 哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤 幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈 義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇 孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本 傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園 英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭 富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田 良成	バラ(切り花)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼玉	奥富 良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛知	角田 隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山梨	渡辺 喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋賀	小杉 長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖縄	大城 清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	菅原 武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	栃木	田代 正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	木村 実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	中村 元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	朝海 常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高尾 保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	小嶺 敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐阜	間宮 敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福岡	井上 茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼玉	戸谷 武雄	シュクコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静岡	服部 一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京都	清水 幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長崎	鹿山 雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	新潟	渡邊 和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	三重	松尾 廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉本 利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮城	平間 久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静岡	とびあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼玉	立石 勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福岡	南嶋精二郎	ペゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長崎	本田 敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	フローラぎふOKI	カラコエ(鉢物)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	月本 雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	兵庫	中岡 邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	市川 一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	渡久山 稔	キク(切り花)	

6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静岡	大庭 孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼玉	新 博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京都	寺内 一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福岡	大隈 博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖縄	外間 勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	斉藤 達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	群馬	小嶋 宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	安保 幹太	シンビジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	堀田 泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	広岡 稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	小池 龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田 誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間 廣美	ディフェンバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原 久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野 純一	インパチエンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表)時松 謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平 憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島 徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本 達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野 伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田 護	ベニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田 義雄	キク(切り花)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺 俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子 正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山 忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野 喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江 広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀 智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村 勇一	プラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林 一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎 勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田 一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田 正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木 隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷 英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦 康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内 敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作 文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎 廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島 衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野 高人	(花木)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代 恒夫	バラ等(切り花)	

2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺 武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺 偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山 正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢 憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼 一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田 静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内 栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村 喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村 隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原 博文	キク(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子 恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多 忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	阪本 正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井 基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本 弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉 廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	完岡 義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	中本 博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	時松 謙	バラ等(切り花)	

## (参考資料2)

# 第28回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール実施要領

### 1. 目的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

### 2. 開催団体

- (1) 主催 一般財団法人日本花普及センター
- (2) 後援 農林水産省
- (3) 協賛 一般社団法人日本花き生産協会  
一般社団法人日本花き卸売市場協会  
一般社団法人全国農業改良普及支援協会

### 3. 出品資格

露地花きにあつては栽培面積が1ha以上、施設花きにあつては栽培面積が50a以上の花き生産を主とする農業者等であつて、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

### 4. 出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会—花き技術・経営コンクール応募用紙」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

### 5. 審査方法

- (1) 予備審査  
一般財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。
- (2) 本審査  
付属資料2の審査委員は、付属資料1の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

### 6. 表彰

- (1) 特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（2点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（4点）、一般財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。

(2) 農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

(3) 次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね5割に達していることと確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること。

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、一般財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

## 7. 事務局

標記コンクールを実施するため、事務局を一般財団法人日本花普及センター内に設置する。

## 8. 開催日程

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 出品募集期間 | 平成30年8月25日～11月30日                             |
| (2) 予備審査   | 平成30年12月                                      |
| (3) 本審査    | 平成31年1月25日(金)<br>東実健保会館 6階「談話室」               |
| (4) 現地調査   | 平成31年2月25日(月) 愛知県 高橋 成治                       |
| (5) 表彰式    | 平成31年3月15日(金) 13:30～<br>学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28) |

(付属資料1)

花き技術・経営コンクール審査基準

- 1 立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
- 2 経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
- 3 消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
- 4 栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
- 5 生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
- 6 土地利用及び労働力利用が合理的であること
- 7 生産性が高く所得が水準以上と認められること
- 8 労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
- 9 環境保全に対する工夫や配慮が見られること
- 10 国際化対応を考慮した経営がなされていること

(付属資料2)

第28回(平成30年度)花き技術・経営コンクール審査員名簿

氏名	所属・役職
腰岡 政二	日本大学 生物資源科学部 教授
土井 元章	京都大学大学院 教授
河野 恵伸	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食農ビジネス推進センター 食農ビジネス研究チーム長
長村 智司	一般社団法人フラワーソサイエティ 会長
田島 鉄弥	一般社団法人日本花き生産協会 顧問
長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役 花の広報室長

## 第28回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成31年3月発行

編集・発行 一般財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

TEL : 03-3664-8739 FAX : 03-3664-8743

e-mail : [jfpc@jfpc.or.jp](mailto:jfpc@jfpc.or.jp)

URL : <http://www.jfpc.or.jp>



いいこと  
あった日、  
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン